

ジャパンマイコンカーラリー 歴代優勝者

	開催年月日	高校生の部	一般の部	トピックス
第1回	1996年1月13日	北海道札幌琴似工業高等学校 富永 篤 42.33秒 【完走率】14.1% (14台/99台)	札幌市交通局 岡島 昌仁 37.59秒 【完走率】21.31% (17台/80台)	・記念すべき第1回。後輪2輪が主流だった。
第2回	1997年1月11日・12日	北海道札幌国際情報高等学校 加納 利博 36.22秒 【完走率】18.0% (27台/150台)	北海道工業大学 伊藤 令 34.21秒 【完走率】30.8% (49台/159台)	・ラジコンサーボ搭載マイコンカーが登場。
第3回	1998年1月11日	北海道札幌琴似工業高等学校 太田 拓也 44.15秒 【完走率】27.2% (55台/202台)	北海道札幌琴似工業高等学校 OB 島津 春夫 26.85秒 【完走率】22.3% (25台/112台)	・「ジャパンマイコンカーラリー」という名称に変更。 ・アナログセンサ搭載のマイコンカーが現れた。
第4回	1999年1月10日	熊本県立玉名工業高等学校 竹尾 範史 29.01秒 【完走率】52.1% (37台/71台)	防衛大学校 情報工学科 近藤 晃司 24.47秒 【完走率】29.4% (25台/85台)	・この年から、マイコンにH8/3048Fが使用されるようになった。 (H8/532との併用)
第5回	2000年1月9日	香川県立坂出工業高等学校 上林 亮 29.45秒 【完走率】32.0% (31台/97台)	北海道自動車短期大学 大日向拓実 29.67秒 【完走率】27.6% (24台/87台)	・この頃からC言語を用いた制御プログラム作成が開始された。
第6回	2001年1月8日	香川県立三豊工業高等学校 山下 泰樹 24.08秒 【完走率】40.7% (61台/150台)	防衛大学校情報工学科 平澤 順治 27.79秒 【完走率】20.6% (21台/102台)	・タイヤにシリコンを塗布したマイコンカーが出現し 見事優勝を飾った。(四国地区の参加高校が連続優勝。) ・「高校生の部」各地区大会合計参加台数が1,000台を超えた
第7回	2002年1月13日	香川県立三豊工業高等学校 山岡 亨 24.29秒 【完走率】45.0% (54台/120台)	愛媛県立松山工業高等学校 教諭 宮岡 欣一郎 25.43秒 【完走率】33.0% (33台/100台)	・アルカリ電池に加えて二次電池の使用が可能になった。 ・タイヤ車検を開始した。
第8回	2003年1月12日	香川県立三豊工業高等学校 瀬戸 義弘 22.61秒 【完走率】32.8% (39台/119台)	個人参加 丸木 雅大 18.91秒 【完走率】29.3% (29台/99台)	・「高校の部で」モーターが指定された。(モーターが支給された。) ・ロータリーエンコーダ搭載機種が登場。
第9回	2004年1月11日	香川県立三豊工業高等学校 石川 信吾 19.24秒 【完走率】37.5% (45台/120台)	香川県立三豊工業高等学校 勘原 利幸 18.30秒 【完走率】48.8% (59台/121台)	・「文部科学大臣奨励賞」が設定された。
第10回	2005年1月8日・9日	神奈川県立磯子工業高等学校 水野 匠 19.60秒 【完走率】40.0% (48台/120台)	ICHIRO (個人) 中尾 伊知郎 18.90秒 【完走率】28.5% (35台/123台)	・10回記念大会として2日間の開催。会場を「NTT北海道セミナーセンタ」 に移して開催された。 ・液晶基板搭載マシンが出現し始めた。
第11回	2006年1月8日	香川県立三豊工業高等学校 岩倉 敏也 18.77秒 【完走率】60.0% (72台/120台)	チームMTY 大美 周平 18.07秒 【完走率】42.5% (51台/120台)	・走行方向を予選と決勝トーナメントで逆方向にする競技方法が採用された。
第12回	2007年1月8日	富山県立大沢野工業高等学校 布村 真佐喜 18.15秒 【完走率】37.5% (45台/120台)	熊本県立球磨工業高等学校 教諭 中村 彰男 18.11秒 【完走率】30.9% (38台/123台)	・大会延べ参加人数が20,000人を突破した。 ・レーンチェンジ(車線変更)コースが追加された。
第13回	2008年1月13日	香川県立三豊工業高等学校 池田 竜 18.54秒 【完走率】50.0% (60台/120台)	砺波マイコンクラブ (TMCC) 番土 隆 17.74秒 【完走率】38.0% (38台/100台)	・初めてマイコンカーに取り組みだ選手のみがエントリーできる 「Basic Class」がプレ開催された。
	[Basic Class]→	熊本県立球磨工業高等学校 小田 耕大 31.86秒 【完走率】41.7% (10台/24台)		
第14回	2009年1月11日	熊本県立球磨工業高等学校 土屋 大樹 16.96秒 【完走率】55.0% (66台/120台)	個人参加 徳永 弦久 17.24秒 【完走率】38.5% (40台/104台)	・中国大会およびベトナム大会で優勝した大学生達が視察に訪れた。 ・「Basic Class」が正式部門になった。
	[Basic Class]→	秋田県立男鹿工業高等学校 工藤 信二 29.95秒 【完走率】54.2% (13台/24台)		
第15回	2010年1月10日	岐阜県立可児工業高等学校 大脇 雅也 16.26秒 【完走率】74.3% (81台/109台)		・第15回大会より一般の部が分離され高校生の部のみになる。 (一般大会は8月に「ルネサスマイコンカーラリー競技大会」として 開催された。) ・予選は2回走行になった。
	[Basic Class]→	岡山県立玉野光南高等学校 松浪 潤一 28.94秒 【完走率】70.6% (24台/34台)		
第16回	2011年1月9日	岐阜県立可児工業高等学校 井戸 弘士 16.31秒 【完走率】60.6% (66台/109台)		・Advanced Classの最速車「4m/秒」の壁を突破。 地区大会最速 4.14m/秒、全国大会最速 4.02m/秒。 ・承認ボードにR8C/38Aマイコン、R8C/35Aマイコンが追加された。
	[Basic Class]→	宮崎県立宮崎工業高等学校 齋藤 祐輔 28.50秒 【完走率】67.6% (23台/34台)		
第17回	2012年1月9日	福岡県立福岡工業高等学校 井上 翔太 16.70秒 【完走率】67.3% (74台/110台)		・タイヤ幅30mm以内、モーター4個以内という規制追加。 ・レーンチェンジ部に硬質ゴム製ガードレール設置。
	[Basic Class]→	岡山県立玉野光南高等学校 田井 宏樹 29.37秒 【完走率】73.5% (25台/34台)		
第18回	2013年1月13日	長野県駒ヶ根工業高等学校 矢澤 美貴 16.25秒 【完走率】73.6% (81台/110台)		・AClass、BClass共に、初めて女性が優勝した。 ・北海道札幌国際情報高等学校での全国大会開催が最後となる。
	[Basic Class]→	岡山県立玉野光南高等学校 柏原 希美 28.62秒 【完走率】64.7% (22台/34台)		

ルネサスマイコンカーラリー競技大会 優勝者

	開催年月日	一般の部	高校生以下の部	トピックス
第1回	2009年8月23日	個人参加 徳永 弦久 20.44秒 【完走率】35.4% (40台/113台)	東京都立小金井工業高等学校 (定時制) 榎本 祐 24.28秒 【完走率】38.8% (19台/49台)	・一般部門の全国大会として初めて単独で開催された。 会場は東京・秋葉原UDXビルで行われ、参加者や観客で埋め尽くされた。
第2回	2010年8月22日	GTマイコンクラブ 深澤 則正 15.02秒 【完走率】44.1% (45台/102台)	岐阜県立可児工業高等学校 坪井 大地 15.87秒 【完走率】33.3% (16台/48台)	・白黒反転区間(区間長500mm)の採用。 ・RX62T、78K0Rマイコンカーのデモ走行実施。
第3回	2012年7月28日	個人参加 中村 彰男 15.35秒 【完走率】68.8% (55台/80台)		・対象は一般の部のみ(高校生は参加不可)。ルネサス半導体トレーニング センターで実施。 ・北海道から沖縄県まで24都道府県から参加があった。
第4回	2013年8月24日	長野県駒ヶ根工業高等学校 小池 伸一 15.28秒 【完走率】52.2% (48台/92台)		・第3回に続き、ルネサス半導体トレーニングセンターで実施。 ・一般の部のみ開催(高校生も参加可能)

マイコンカーラリーとルネサス エレクトロニクス

私たちルネサス エレクトロニクスのマイコンカーラリーへの協力支援は、今年で19年目を迎えました。マイコンカーラリーは、工業高等学校の皆さんを中心に活動をしてきましたが、今では世代を超えて、幅広い層の方々へ支持をいただくまでに成長しました。さらには中国やベトナムでの開催等、その活動は海外にまで広がっています。これまで、数多くの若き世代の担い手が、マイコンカーラリーの大

会への参加を通して、ものづくりを学び、心を豊かに育み、人間として大きく成長されたという大変な声をお聞きしております。私たちルネサス エレクトロニクスは、企業の社会貢献として、育成支援の必要性和重要性を真摯に受け止め、未来の技術者育成に努めるべく、これからもマイコンカーラリーを通じ、若者のびやかな創造力と可能性を広げるサポーターとして、応援つづけます。

マイコンカーラリー ホームページアドレス

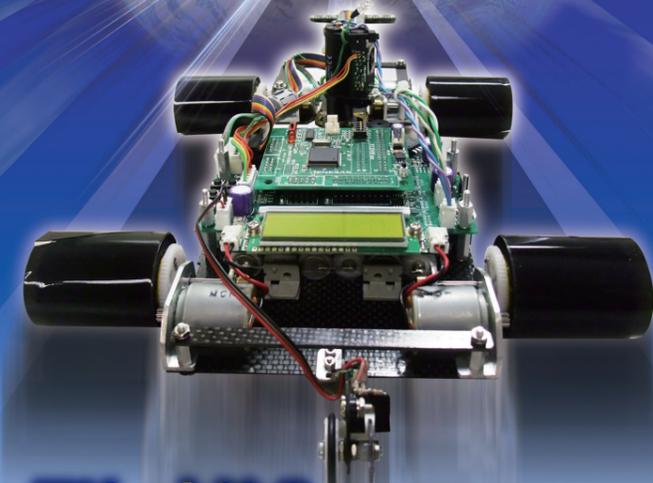
<http://www.mcr.jp>

ルネサス エレクトロニクス株式会社
ホームページアドレス

<http://japan.renesas.com/mcr>

MICOM CAR RALLY

マイコンカーラリーのあゆみ



▶ マイコンカーラリーとは？

マイコンカーラリー競技は指定マイコンボードを搭載し独自に製作、プログラミングした手作りのマイコンカーでタイムを競う全国規模のロボット競技です。ルネサスは1996年の第1回大会から参加者が使用するマイコンボードとモータの提供、大会機材の貸与、技術講習会の実施など、18年にわたって協賛・支援を行っています。

- 年間の大会参加台数は3600台を超え、延べ台数は4万4千台を超えました。
- 海外では、中国、ベトナムでルネサス支援のマイコンカー大会が開催されています。



全国大会(北海道)



地区大会

▶ ミニマイコンカー製作教室

小中学生が「ものづくりの楽しさ」を体験し、科学技術に興味を持って貰えるように、製作、プログラミング、調整まで自分自身で行う電子工作教室です。ルネサスでは簡単に組み立て、プログラミングができるミニマイコンカーを開発し、2002年からミニマイコンカーキットの提供、大会機材の貸与などの協賛・支援を行っています。



- 年間の開催数は全国で44会場、2002年からの参加者は延べ4900名を超えました。マイコンカーに取り組む高校生が補助講師として小中学生を指導します。高校生にとっても「学びの場」となっています。



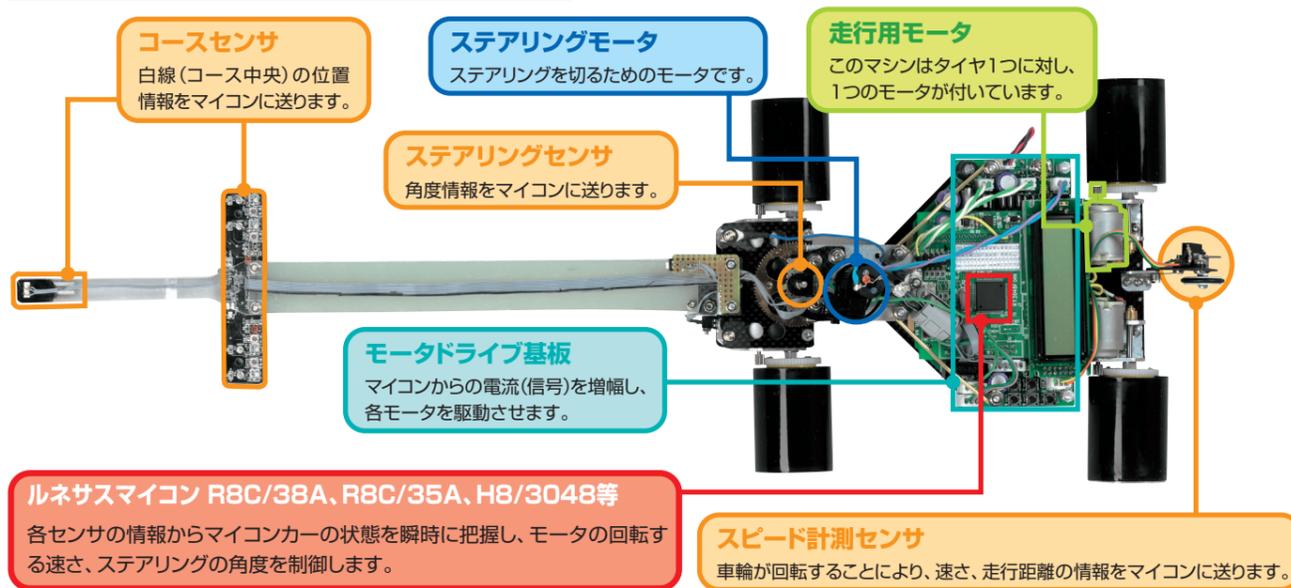
▶ マイコンカーの走る仕組み

マイコンカーとは?

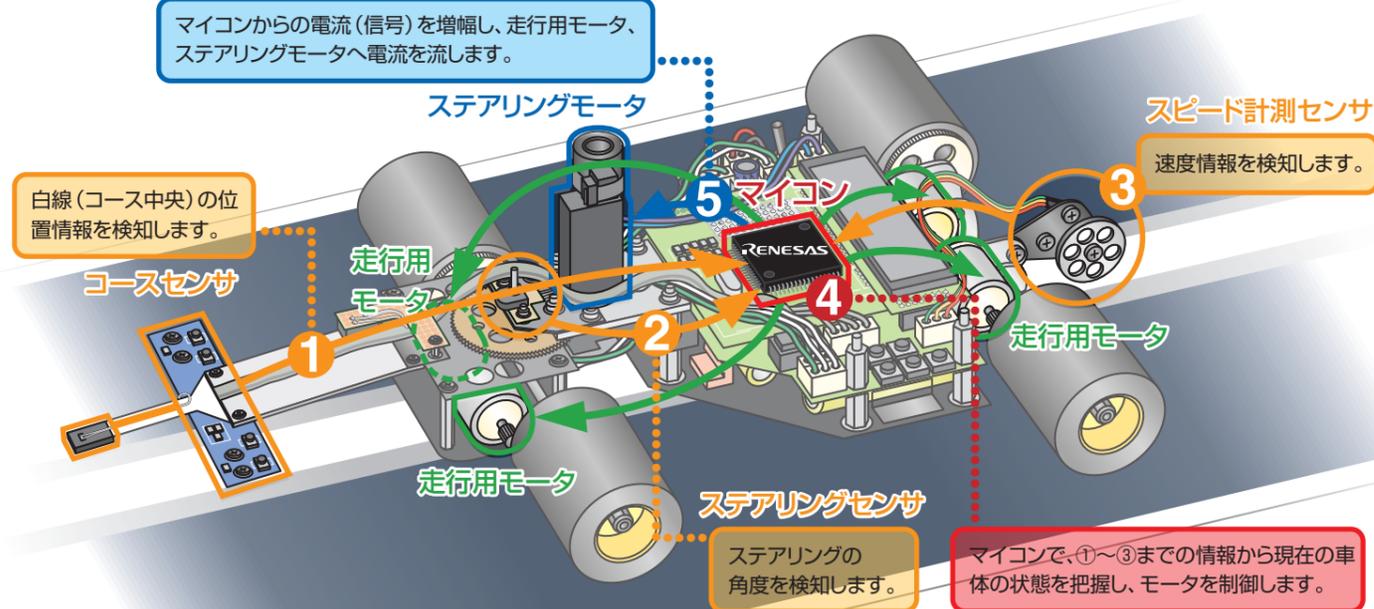
マイコンを搭載した完全自走式の手づくりのロボットです。
ラジコンカーと似ていますが、車体のコントロール方法は全く違います。
ラジコンカーは電波を利用し人間がコントローラで操縦するのに対し、「マイコンカー」は、マイコンに操作手順をプログラミングしておくことによって、マイコン自身が操縦をします。
マイコンカーの車体の性能を活かすには、**プログラミング技術(モータコントロール)**が最も重要であり、車の走りに多大な影響を与え、プログラムの優劣により性能に格差がでます。



各部の名称と機能



走る仕組み



▶ マイコンカーの変遷

1996年 第1回大会	2000年 第5回大会	2004年 第9回大会	2010年 第15回大会
高校生の部 優勝 富永 篤さん(カーネーム:デストロイヤー)	高校生の部 優勝 上林 亮さん(カーネーム:nWo.Japan)	高校生の部 優勝 石川 信吾さん(カーネーム:LEVIN)	高校生 Advanced Class 優勝 大脇 雅也(カーネーム:テスターSHACK)

▶ マイコンの変遷

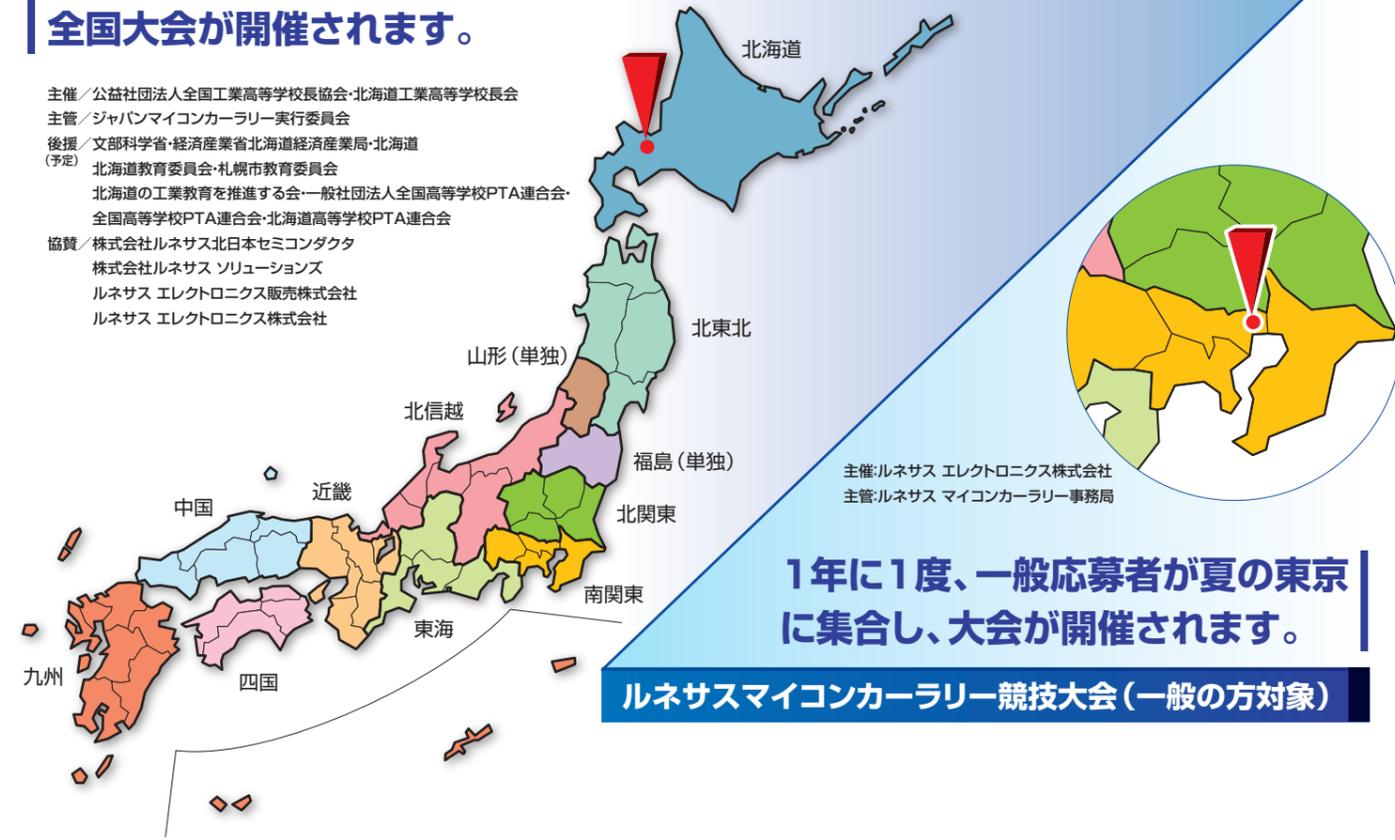
H8/532 (第1回~第3回大会)	H8/3048F (第4回~第7回大会)	H8/3048F-ONE (第8回~)	R8C/38A

▶ 大会の開催エリア

ジャパンマイコンカーラリー(高校生の方対象)

全国12地区の代表者が冬の北海道(札幌)に集結し、全国大会が開催されます。

- 主催/公益社団法人全国工業高等学校長協会・北海道工業高等学校長会
 主管/ジャパンマイコンカーラリー実行委員会
 後援/文部科学省・経済産業省北海道経済産業局・北海道(予定) 北海道教育委員会・札幌市教育委員会
 北海道の工業教育を推進する会・一般社団法人全国高等学校PTA連合会・全国高等学校PTA連合会・北海道高等学校PTA連合会
 協賛/株式会社ルネサス北日本セミコンダクタ
 株式会社ルネサスソリューションズ
 ルネサス エレクトロニクス販売株式会社
 ルネサス エレクトロニクス株式会社



1年に1度、一般応募者が夏の東京に集合し、大会が開催されます。

ルネサスマイコンカーラリー競技大会(一般の方対象)